



知財情報フェア2025の評判総合レポート

2025年9月10日から12日にかけて東京ビッグサイト西3・4ホールで開催された「第34回 2025知財・情報フェア&コンファレンス」は、同イベント史上最大規模での開催となり、知的財産業界における生成AI時代の本格的な到来を象徴する画期的なイベントとして高く評価された。過去最大の158社・団体が出展し、総来場者数15,207名を記録する大盛況となったこのフェアは、AI関連技術の展示が圧倒的な存在感を示し、知財業務の未来を変える可能性について活発な議論が交わされた。参加者からは「AIツールが本格的な普及段階に入ったことを強く実感した」との声が多数聞かれ、業界関係者の期待の高さを物語る結果となった。^{[1] [2] [3] [4] [5]}



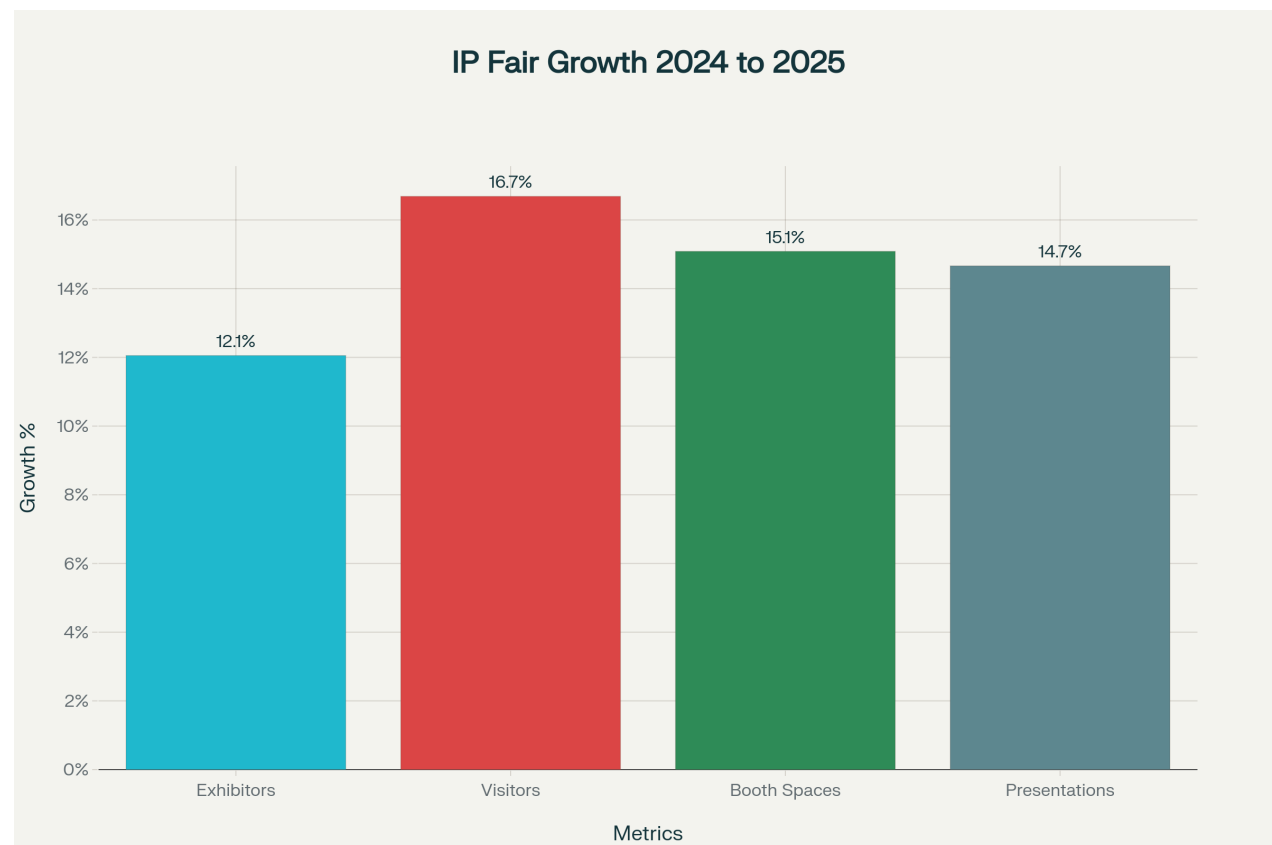
Exhibition booths and attendees at the intellectual property information fair showcasing companies like HITACHI at Tokyo Big Sight.

過去最大規模での開催と圧倒的な成長実績

記録的な規模拡大

2025年の知財情報フェアは、あらゆる指標において過去最高を記録し、知財業界の活況ぶりを印象づけた。出展社数は158社・団体となり、前年の141社から12.1%の大幅増加を達成した。この成長は単に量的な拡大にとどまらず、出展小間数328小間（前年比15.1%増）、出展者プレゼンテーション86テーマという質的な充実も伴っていた。^{[1] [2] [5] [6] [7]}

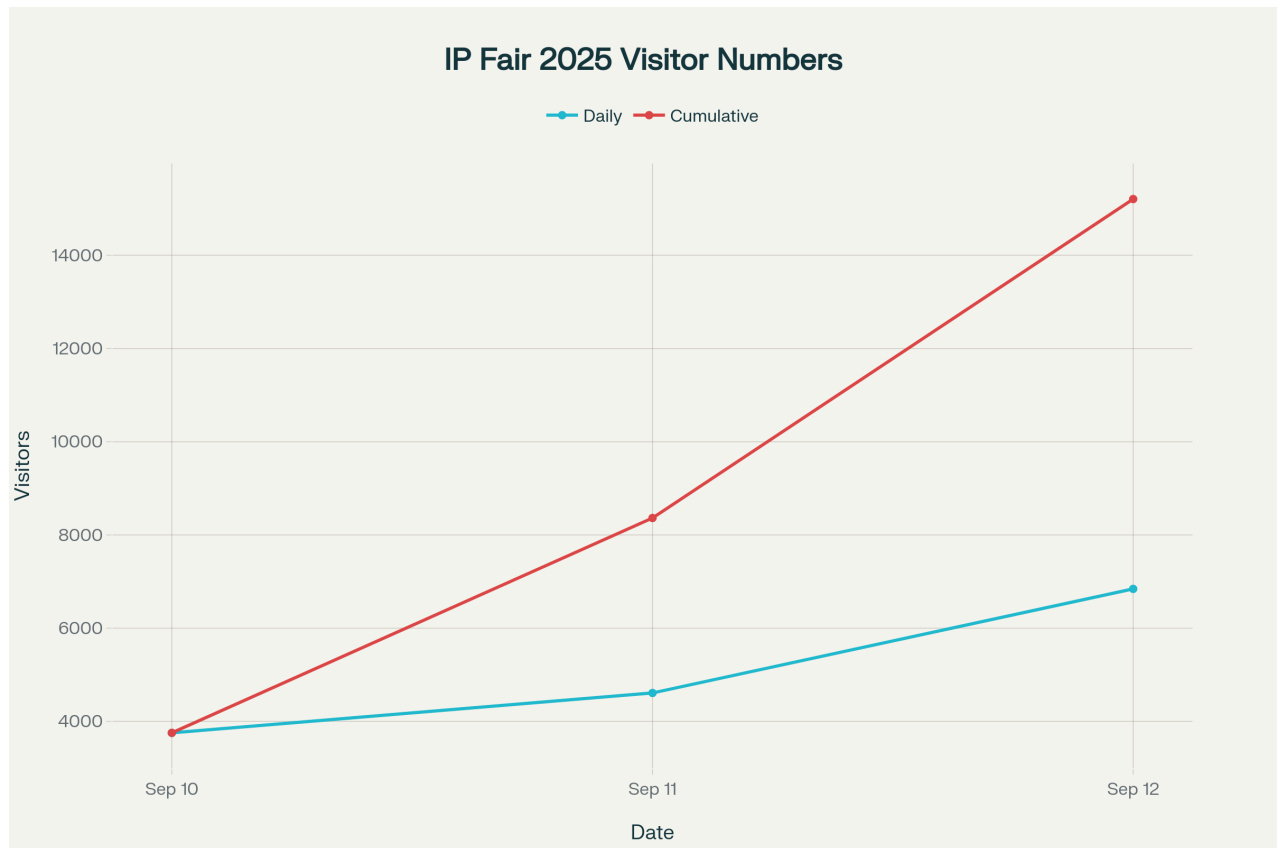
来場者数においても顕著な成長を示し、総計15,207名が来場して前年の13,032名から16.7%の大幅増加を記録した。この数字は、知財業界における関心の高まりと、特に生成AI等の新技術への期待の大きさを反映している。日別の来場者数分析では、初日3,754名、2日目4,610名、最終日6,843名と着実に増加し、最終日には会場が溢れるほどの盛況ぶりを見せた。^{[2] [5] [1]}



知財情報フェア2024年と2025年の規模比較チャート

40年以上の歴史における節目

1981年から40年以上の歴史を持つこのイベントにとって、2025年は特に意義深い年となった。2024年から「知財・情報フェア&コンファレンス」に名称変更し、従来の特許・実用新案中心から意匠・商標を含む知財全分野への拡充を図った効果が如実に現れた。主催者である一般社団法人発明推進協会、一般財団法人日本特許情報機構、産経新聞社による運営体制も安定し、経済産業省、特許庁をはじめとする官民の後援体制も充実していた。^{[1] [8] [7]}



知財情報フェア2025の日別来場者数推移

AI技術展示の圧倒的存在感と業界変革の兆し

生成AI一色に染まった会場

2025年の最大の特徴は、まさに「AI、AI、AI！AIを使ったサービスだらけ」と参加者が表現するほど、生成AI関連の展示とサービスが会場を席卷したことである。会場の約半数がAI関連の展示で占められ、従来の特許検索ツールから生成AIによる分類・分析、ブランドセキュリティ、侵害予防まで多岐にわたるソリューションが披露された。^{[1][2][5][9][6]}

主要なAI関連出展企業には、AI Samurai、My Tokkyo.AI、PatSnap、Questel、パテント・インテグレーション、東芝デジタルソリューションズ、LexisNexis、Fovea、NTTデータなどが名を連ね、知財業務の各段階でのAI活用の可能性を具体的に示した。特に注目を集めたのは、特許調査の効率化、知財業務の自動化、AI活用による分析の高度化といった実用的なソリューションであった。^{[3][5][6][10]}

AIツール普及の新段階への移行

参加者の多くが指摘したのは、AIを「導入しているかどうか」の段階から「どう活かすか」の段階へと競争軸が移行していることである。2023～2024年頃までは生成AIを組み込んでいることが差別化要因であったが、2025年現在、AIを組み込めないベンダーはすでに競争から脱落しており、今後は知財データと生成AIの垂直統合による「知財AI」の実現が勝負を分けるポイントとなっている。^[9]



Exhibition booth for root ip intellectual property management system at a trade fair

参加者・出展者からの高い評価と満足度

セミナー・フォーラムの連日満席

会期中のセミナーや出展者プレゼンテーション、特別フォーラムは軒並み満席となり、一部では立ち見が出るほどの盛況ぶりを見せた。初日から特許庁長官の挨拶・視察が行われたフォーラムは満席となり、業界の信頼性と注目度の高さを象徴する場面となった。参加者からは「ブース前で開催されるミニセミナーも参考になる内容が多かった」「期待していた以上の最新情報が得られた」といった好意的な評価が相次いだ。^{[1] [2] [4]}

出展企業の高い満足度

出展企業からも満足度の高いコメントが数多く寄せられた。Smart-IPは「ブース訪問への感謝の声多数」、エムニは「AI特許ロケットへの問い合わせ殺到で知財領域のAI関心の高さを実感」、GMOブランドセキュリティは「セミナー満席で大盛況」といった具体的な成果を報告している。また、工業所有権情報・研修館（INPIT）は公式SNSで「大盛況のうちに終了」と総括し、出展側の高い満足度を示している。^{[1] [2] [5]}

活発なネットワーキングと人的交流

参加者からは人的ネットワーキングの価値についても高い評価が寄せられた。パテントサロンブログの運営者は「10年ぶりの再会」や「毎年参加している社員グループとの交流」を報告し、継続的な関係構築の場としての価値を強調している。また、知財塾では「イメージキャラクター名コンテスト」などのユニークな企画で交流を促進し、Amazon ギフト抽選なども好評を博した。^{[11] [12]}



Gaixer exhibition booth at AI Expo Tokyo showcasing AI technology presentations and digital displays relevant to intellectual property events.

業界専門家・メディアからの評価

知財業界の未来を示すイベントとしての位置づけ

知財業界の専門家や有識者からは、2025年のフェアが「AI時代の知財の方向性を示す刺激的な場」として高く評価されている。ある知財専門の弁護士は「今年はやはり、AI、AI、AI！AIを使ったサービスだらけでした」と述べ、業界全体のAI重視の姿勢を的確に表現している。また、「知財と経営をつなぐ最新ソリューションが集結」「国内唯一無二の知財総合展が今年も盛会」といった論調でメディアからも報じられ、業界内外からの注目度の高さが確認された。^{[21] [5]}

特許庁などオフィシャル機関からの評価

特許庁長官による開幕日の挨拶・視察や各国知財機関代表者の講演では最新の知財政策動向が紹介され、聴講した企業知財担当者からは「有益な最新情報が得られた」との評価が聞かれた。専門家パネルディスカッションでは白熱した議論が展開され、知財戦略の新潮流に関する示唆が多数提案されるなど、公的機関との連携による質の高い情報発信が実現された。^[5]

SNS・デジタルメディアでの反響

積極的な情報発信と話題性

SNS上では公式ハッシュタグ「#知財情報フェア2025」や「#知財フェア」が多数投稿され、来場者による会場写真、講演感想、戦利品報告が活発に行われた。特に若手の知財人材にとって、業界理解を深め人脈を広げる場として積極的に活用されている様子が確認でき、「先輩に勧められて初めて来場が刺激になった」「次回もぜひ参加したい」といった新規参入者からの好意的な反応も目立った。^[12]

出展企業によるデジタル発信

多くの出展企業がX（旧Twitter）や公式ブログで感謝のメッセージを発信し、「ブースにお立ち寄りいただきありがとうございました」といった投稿が相次いだ。これらの発信からも、出展側が今回の来場者数・熱気に十分満足した様子が伺える。また、GMOブースでのヒューマノイドロボット「ひとみん」と犬型ロボット「めぐりん」による記念撮影企画などは、SNS上でも注目を集め、イベントの話題性向上に寄与した。^{[11] [5]}

課題と今後への示唆

AI技術への過度な期待と現実的な課題

一方で、AI技術の急速な進化に対する現実的な課題も浮上している。一部の参加者からは「AIの急速な進化が業務予測を難しくする」との懸念が表明され、AI依存のリスク管理が今後の焦点となりそう。また、「AIを使っているか」から「どう使いこなすか」への移行期において、人材育成や業務プロセスの再設計といった組織的課題への対応が求められている。^{[11] [9]}

次世代知財経営への展望

専門家からは、数年後にはChat型知財AIが完全にコモディティ化し、知財データと生成AIを垂直統合した「知財経営AI」が次の競争軸になるとの予測も示されている。公報検索から契約文書、研究ノート、社内ナレッジまで統合し、出願支援にとどまらず無形資産経営や研究開発戦略の意思決定までカバーするシステムの実現が、ベンダーの生死を分けることになると予想されている。^[9]

総合評価と次回への期待

知財情報フェア2025は、過去最大規模での成功を収め、知財業界におけるAI時代の本格的な到来を象徴する記念すべきイベントとなった。出展社数、来場者数、満席セミナーの数、そして参加者からの好意的な評価のいずれをとっても、同イベントの価値向上と業界内での重要性増大が明確に示された。^{[11] [12] [5]}

特に注目すべきは、単なる技術展示にとどまらず、「知財の未来を共に考え、新たなビジネスの可能性を切り開く場」として機能していることである。AI技術の可能性を活かしつつ、業務変革の準備を促す内容が知財専門家のニーズにマッチし、主催者の運営力も高く評価されている。^{[12] [1]}

主催者発表によれば、次回第35回は2026年9月16日～18日に開催予定とされており、さらなる規模拡大と内容充実への期待が高まっている。知財戦略が企業価値に直結する時代において、本フェアの

重要性はますます高まっており、日本の知財業界の発展を牽引する中核的イベントとしての地位を確立したといえるだろう。

<div style="text-align: center">✪</div>

1. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/8fd734b2c9a4d59aa9b7.pdf>
2. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/f6dd341e3cff15206ac3.pdf>
3. <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
4. https://note.com/jp_design/n/n62c1b7f2f43c
5. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c615a21fdac7910e6430.pdf>
6. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/7515a8cf1e52c9c73559.pdf>
7. <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000001963.000022608.html>
8. <https://pifc.jp/2025/eng/>
9. https://note.com/yutori_jd/n/n3a4330a01691
10. <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000006.000140717.html>
11. <https://en.kangxin.com/html/2/215/216/28141.html>
12. <https://ipforce.jp/News/ip-news/topic/2025-09-17-8491>
13. <https://pifc.jp/2025/report/>
14. <https://www.ipserviceworld.com>
15. <https://www.patware.net/info/その他/pifc2025-2/>
16. <https://super-ip-expo.com/2025>
17. <https://patseer.com/about-news-and-events/pifc-2025/>
18. <https://pifc.jp/2025/>
19. <https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025chizai.pdf>
20. <https://elevate.law/events/2025-pifc/>
21. https://www.kudopatent.com/news_and_topics/2025-09-5.html
22. <https://www.jpo.go.jp/news/expo2025/index.html>
23. <https://aztec.co.jp/en/news/news/8286>
24. <https://chisenkai.jimdofree.com>
25. <https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/event/2025/0910-0912.html>
26. <https://yorozuipsc.com/blog/ai9639613>
27. <https://hackcamp.jp/news/expo-202509/>
28. <https://adv.tokyo-np.co.jp/prtimes/article53482/>
29. <https://iptops.com/blog/193333>
30. <https://pifc.jp/2025/visit/>
31. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/01/pifc2025yoko_v1.pdf
32. <https://www.jpds.co.jp/event/other.html>
33. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/07/pifc2025pamphlet_v1.pdf

- 34. <https://axelidea.com/20250815/>
- 35. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/76ac23056dda2035ec92c8ef5b014472/26d3d0ab-3759-4b5e-ae2f-b743cf20b027/74ab2ca0.csv>
- 36. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/76ac23056dda2035ec92c8ef5b014472/26d3d0ab-3759-4b5e-ae2f-b743cf20b027/056bfe29.csv>
- 37. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/76ac23056dda2035ec92c8ef5b014472/26d3d0ab-3759-4b5e-ae2f-b743cf20b027/38c64c4f.csv>
- 38. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/76ac23056dda2035ec92c8ef5b014472/26d3d0ab-3759-4b5e-ae2f-b743cf20b027/576c1fa2.csv>